

定住推進員を配置しました ～ おおだ定住支援センター ～

定住対策は、大田市にとって大変重要な課題です。市では産業振興や子育て支援などを重点的に取り組み、若者を中心とする人口流出を抑え、都会からのU Iターンを促進していきたいと考えています。

定住促進につなげるためには、U Iターン希望者に、定住施策や住宅情報、求人情報などの情報をできるだけ早く、わかりやすく提供することが大切です。

そこで、4月から定住に関する情報の一元化を図り、迅速に、きめ細かく対応するため、市役所地域政策課内に「おおだ定住支援センター」を設置し、定住推進員を配置しました。

定住推進員の仕事は、①定住希望者等への情報提供・発信、②定住後の相談業務、③住まいとして活用するための空き家調査などです。

定住推進員の森山敏夫さんは、「現在は、既に大田市にU Iターンされた人の大田市での住み心地などの聞き取り調査や、空き家調査などに取り組んでいます。今後は、都市部に出かけての定住相談や、大田の暮らしなどを体感していただく取り組みも必要と考えています。定住促進に少しでもお手伝いができれば」と意気込みを話されています。

ご家族や知り合いに「大田市に帰りたい」など、定住に関心がある人がおられましたら、ぜひ、ご連絡ください。

問い合わせ おおだ定住支援センター(大田市役所地域政策課内) ☎0854-82-1600 (内線211)

シリーズ新石見銀山⑫

現地を歩きましょう

大田市では平成18年度から遺跡の整備活用事業に本格着手しています。今年3月、仙ノ山(大森町・銀山柵内)一帯の遺跡群を結ぶ見学道が開通したことにより、来訪される皆さまにさまざまな遺跡を歩いていただくことができるようになりました。

先日、整備した見学道のひとつ、清水谷の清水寺跡、選鉱場跡、蔵之丞坑を結ぶルートウォーキングを開催しました(写真)。市内外からのたくさんの参加者と一緒に約3時間歩きました。

江戸時代に柵の出入り口のひとつであった清水口番所跡から清水谷の谷筋へ入っていくと、大きな広さの境内地と考えられる平坦地にたどりつきます。ここが、清水寺跡。明治11年に、現在地の銀山川上流の休谷に移転しましたが、銀山が最も栄えた時期、この地に創建されたと推定しています。

驚くことに、この平坦地のつながりには、明治19年、石見銀山で操業を始めた藤田組(現在のDOWAホールディングス株)が明治の中ごろに建設した選鉱場跡も良好に残っています…。と、専門職員の説明を受けながら歩き、庭園の跡、周辺の石垣やトロッコ道跡に目を向けると、あたかも「その時、この場所」にわが身が溶け込んだ錯覚におちいりました。たぶん、現地に足を踏み入れ、五感が活性化されたためでしょう。

石見銀山は、さまざまな遺跡がたくさんありますが、自身の努力だけでは全体像を理解することがなかなか難しいと思います。特に、初めて行く場所へは、可能なかぎり、ガイドさんや地元の精通者の方たちといっしょに歩き体感し、そして楽しんでいただくスタイルが望ましいと思います。



5月30日(土)開催。選鉱場跡での受講風景
今年度、撮影位置から山裾の製錬所跡への見学道整備を予定

※世界遺産センターから、次のURLで最新情報のお知らせをしています
<http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

石見銀山世界遺産センター ☎0854-89-0183